

増加する訪日外国人や国内利用者の決済ニーズに対応するため
丸の内エリアのキャッシュレス決済を加速

～“キャッシュレスのまち”丸の内を目指して、「丸の内二重橋ビル」商業ゾーン「二重橋スクエア」より順次導入～

三菱地所株式会社と三菱地所プロパティマネジメント株式会社は、国内外からの来街者、エリア内就業者の多様なニーズに対応するため、丸の内エリア一帯のキャッシュレス化*を加速してまいります。第一段として2018年11月8日(木)オープン「丸の内二重橋ビル」商業ゾーン「二重橋スクエア」の25テナントに、非接触型・QRコード型キャッシュレス決済端末を導入します。

*キャッシュレス決済:紙幣と硬貨を使わない決済方法のことをいい、従来のクレジットカードのようにカードリーダーに差し込んで決済する「接触型」、電子マネーなどをカードリーダーにかざして決済を行う「非接触型」や、「WeChat Pay」などのモバイル決済で採用されている、スマートフォンなどに表示させたQRコードを読み取らせる「QRコード型」など増えています。

キャッシュレス化によって、お客様はお財布を持たずスマートフォン片手にショッピングやお食事を楽しむことができ、スマートフォンやクレジットカード等を端末にかざすだけでスピーディに決済できます。また、レストラン等でも、席にいなながらその場でキャッシュレス決済を完了することが可能になります。

近年、様々なキャッシュレス取引サービスが登場し、既にヨーロッパやアジア各国においては、国際標準のキャッシュレス決済が広く普及しており、訪日外国人が今後更に増加することにより、キャッシュレス決済ニーズの一層の高まりが見込まれます。国内においても、2018年4月に経済産業省が「キャッシュレス・ビジョン」を策定、キャッシュレス決済の拡大に向けて環境整備を進めていくなど、利用者増加が見込まれます。これらを踏まえ、丸の内エリアでは、インバウンドを含めた来街者に向けた利便性と快適性を追求し、キャッシュレス化を加速します。

「二重橋スクエア」を皮切りに、2019年4月には丸ビル、新丸ビルへ導入、更に丸の内エリアの約20棟のビル、約600のテナントに順次拡大していく予定です。

今後も三菱地所グループでは、丸の内エリアを訪れるお客様の利便性、快適性を追求し、より一層魅力的な街づくりに取り組んで参ります。

■導入エリア



■設置時期(予定)

- ・2018年11月 丸の内二重橋ビル商業ゾーン「二重橋スクエア」
- ・2019年4月 丸ビル、新丸ビル
- ・以降順次設置予定

■新たに導入する決済用端末

①QRコード決済対応端末



QRコード決済対応端末及びテナントコミュニケーションツールとして、汎用性の高いiPadを整備。今後新たなペイ決済サービスが登場した際も、アプリ導入によりスムーズな対応が可能となります。また、iPadを活用することでテナントとのコミュニケーション(各種申請、連絡、アンケート等)の効率化を図り、さらに開発・導入済みの「接客音声翻訳アプリ*」の整備強化による訪日外国人対応のサービス向上を図ります。

*接客音声翻訳アプリ: 訪日外国人や外国人就労者への接客サービス強化を図るため、商業接客に特化して開発した三菱地所グループオリジナル多言語翻訳アプリ。2016年11月1日より配信。

②非接触決済対応(NFC*)リーダライタ



各種非接触型決済に対応するため、現在交通系IC決済等利用のFeliCa対応リーダライタに加えて、最新型(NFC対応)に更新します。

*NFC: Near Field Communicationとは、近距離無線通信規格と呼ばれるもので、NFC対応のクレジットカードでの決済が可能になります。

③Poke Pos



主にレストラン店舗のテーブル決済(無線型決済)時に利用可能となる端末を希望店舗に整備します。クレジット決済、電子マネー、銀聯等の決済が可能です。